



2014 年度 第 1 回入試
(1月10日午前実施)

昌平中学校入学試験問題

国 語

(制限時間 50 分)

注 意

- (1) 係の先生の指示に従って、所定のらんに受験番号、氏名を書きなさい。
- (2) 答はすべて解答用紙のきめられたところに、はっきりと書きなさい。
- (3) 問題は 1 ページから 8 ページまであります。
- (4) 印刷のはっきりしないところは、手をあげて係の先生に聞きなさい。
- (5) 途中でトイレに行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は手をあげて、係の先生の指示に従いなさい。

受験番号	氏 名

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数制限のある場合は、句読点や符号も一字と数えます。)なお(※)は作問者の註です。

私はピアノが大きらいだった。ピアノというより、ピアノの練習がいやでいやでしかたなかったのだ。月曜の夜のあのあせり。あの感じ。でもどうしても練習をする気になれないもどかしさ。

私はみどりちゃんのことを考える。みどりちゃんと私は、同じピアノ教室に通っていて、その教室で春に発表会があった。市内の同じ系列のピアノ教室の生徒が集まって、地元の文化会館で行われた小さいものだったけど、私は案の定①「練習をする」というセンスがまったくなく、いつまでたっても上達しなかった。私の弾く曲は、十分実力の範囲内の曲だったし、時間は十分すぎるほどあった。

にもかかわらず、いつまでたつても上達しない私に、先生はあきれかえりながら、最終手段として「補習」という、思いもかけなかった②とんでもない隠し技を提示してきたのだ。

火曜日のレッスン日以外に、なんと日曜日まで特別にレッスンするというのだ。もちろん、発表会までの期間限定だし、これは先生の好意であつて無理に行かなくてもいいのだけれど、わざわざ先生が自分の時間を割いてまで教えてくれるというのに、行かないわけにはいかなかった。お母さんは先生に、申し訳ない、はずかしい、感謝します、と深々と頭

を下げた。

でも、私は腹立たしかった。せつかくの休みにレッスンに行くなんて、まったくばかかっている。本番になればどうにかなるし、今までの経験からすると、きつと私は三日くらい前から猛練習をして、なんとか弾けるようになるはずなのだ。

それにこの補習は私のためじゃない。本番で先生が恥をかかないための補習レッスンとしか思えなかった。

私はしぶしぶとレッスンに行き、うんざりしながらみどりちゃんに、そのことを告げた。みどりちゃんは、同情とも哀れともつかない変な表情をして、

③「大変だね」

とひとことだけ言った。

しかし、それからしばらくたったある日、みどりちゃんは私に、

「うらやましいよ」

とポツリと言ったのだ。

「えっ、何が」

「ピアノ。レッスン日以外にも、先生から教えてもらえるなんていいなあ……」

私は自分の耳を疑った。

「なんで？　なんでなんで。だって無理やりやらされてるんだよ。あまりにも下手だから、しょうがないからやってるんだよ。先生だって本当

はイヤイヤなんだよ」

「ううん、ちがうよ。さえちゃんには上手になってもらいたいんだよ。期待してるの、先生は。発表会でうまく弾けるようになって」

「ちがう。絶対にちがうよ。ねえ、みどりちゃん、ほんとに④「そんなじやないんだよ」

「ううん、お母さんも言った。あんたも頼んで教えてもらいなさいって……」

そんなじやないのに……どうして……。⑤「私はこのとき本当に、すごい衝撃を受けた。」

みどりちゃんは、みどりちゃんの実力より少し上のランクの曲を発表会で弾く。それは、みどりちゃんならできると先生が確信したからで、補習をしないのは、そんな余計なことをしなくても、みどりちゃんはきちんと家で練習してきて、完璧に弾けるのがわかっているから。

それなのに、なんでなんだろう。うらやましいなんて。人によってこんなに受けとめ方がちがうなんて。それはとても怖いことで、私はその日みどりちゃんに言われたことが、頭から離れなかった。自分がこうだと思っていたことが、ほかの人にとってはまったく別の意味を持つ。怖いと思った。ものすごい恐怖だった。

みどりちゃんも、今月でレッスンをやめる。私は火曜日のレッスンがなくなって課題を与えられなくなったことで、これからはもうピアノを弾かなくなるだろう。でも、みどりちゃんはレッスンをやめたあとと

その最初と最後の五字を書きぬきなさい。

〔二十字〕ので、練習を全くしなかったという意味。

問二——線②「とんでもない隠し技」について、次の各問いに答えなさい。

(1) それはどのようなことですか。その答えとなる次の文の〔 〕にあてはまることは文中から指定の字数で探し、書きぬきなさい。

先生が好意で、〔 十四字 〕ということ。

(2) 「とんでもない隠し技」という表現には、「予想もしなかったやり方」という意味以外に、もう一つ意味がこめられています。それはどのような意味ですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 先生は、油断させておいて不意を突くような卑怯な人だという意味。

イ こういう手を使われると、相手の思惑通りに動くしかないという意味。

ウ やり方の手が込んでいて、だれでもまね出来るものでないという意味。

エ やり方が見事で、やられたこちらさえ感心させられてしまうという意味。

問三——線③『大変だね』とひとことだけ言った」とありますが、みどりちゃんは、なぜ「ひとこと」しか言わなかったのですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 「私」だけにサービスする先生に腹が立ったが、それを「私」に對して言っても仕方がないと思ったから。

イ まるで、自分だけは先生に好かれているのだと自慢げに、わざと

⑥「ずっとピアノを弾き続けることだろう。自分ですすんで譜面を買ってきて、それができるようになるまで」⑦「何度も練習をするだろう。」

発表会当日、私は自信のなさのために、少しばかりテンポを速く弾きすぎてしまったけれど、それ以外はけっこううまくできた。先生もほっとした様子で、笑顔を見せてくれた。

でも、練習では完璧だったみどりちゃんが、本番で二回もミスってしまったのだ。みどりちゃんはそれでも堂々としていたけど、心の中ではきつと残念に思っていたと思う。

それとも、私に対して「ほらね、さえちゃんは補習をしたから上手に弾けたでしょ。私は教えてもらえなかったからまちがえて当然なの」と思っていたのかもしれない。そう考えるとひどく悲しかったけど、終わってから「ほっとしたね」となんのふくみもない晴れ晴れした笑顔で言われて、私はそんなふうに意地悪く思ってしまった自分を⑧「呪った。」

先生は、おとりのみどりちゃんのまさかのミスに顔をしかめていて、私は「本当に大人は余計なことをする」と補習のことを思い、「だからこんなことになる」と少し残酷な気持ちで先生のゆがんだ顔を遠くから眺めていたのだった。

(椰月美智子『十二歳』による)

問一——線①『練習をする』というセンスがまったくなく」とありますが、この部分ほどのような意味を表していますか。その答えとなる次の文の〔 〕にあてはまることは文中から指定の字数で探し、

嫌がってみせる「私」に腹が立ったから。

ウ 本当のところそうは思っていないが、嫌気がさしている「私」に、自分の本心を言うのはためらわれたから。

エ 自分も今は、春の発表会のためのピアノの練習に必死で、「私」のことを考えている余裕などなかったから。

問四——線④『そんなじやない』とありますが、「先生」の思いについて「私」がどう考えているのかを、次のように説明しました。〔 A 〕・〔 B 〕にあてはまることは、文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

みどりちゃんの言うように、「私」に〔 A (二字) 〕しているからではなく、先生自身が〔 B (八字) 〕に、イヤイヤながら「私」に練習を追加しているのだということ。

問五——線⑤「私はこのとき本当に、すごい衝撃を受けた」とありますが、このときの「私」の気持ちを次のように説明しました。〔 〕にあてはまることは、文中から指定の字数で探し、その最初と最後の五字を書きぬきなさい。

〔 二十六字 〕ことを、とてもおそろしいと感じた。

問六——線⑥「ずっとピアノを弾き続けることだろう。」——線⑦「何度も練習をするだろう」とありますが、この二つのことばにこめられた「私」の思いとしてあてはまらないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア みどりちゃんへの尊敬の念　イ みどりちゃんに寄せる好意

ウ みどりちゃんに向ける願望　エ みどりちゃんに対する同情

問七——線⑧「呪った」とありますが、本来なら「反省した」というところを、なぜこのような強い表現になっているのですか。最も適当

なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア よりによって、あんなに優等生のみどりちゃんを悪く思った自分が許せなかったから。

イ ものごとを我が身にとつて悪いように考えるくせのある自分に強い嫌悪を感じたから。

ウ 素直なみどりちゃんに比べて、つくづく自分のひねくれた性格がいやになったから。

エ 本心を隠してうそが言えるみどりちゃんに比べて、自分の正直さに腹が立ったから。

問八 この物語は、『十二歳』という題名からも推測できる通り、現在大人となった筆者が、昔の自分を振り返って書いた自伝的小説と考えられます。当時の自分とみどりちゃんの考え方のちがいについて、現在、筆者はどのように思っていると考えられますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 今でも自分の考え方は正しく、みどりちゃんはいい子だったけれど、二人が置かれていた状況を誤解していたと思っ

イ あのことろの自分はずいぶんひねくれた考え方をしていたのに比べて、みどりちゃんは「大人」だったと思っ

ウ あのことろの自分がまちがっていたとは思わないが、みどりちゃん

エ 言ったことも、今なら理解できると思っている。

エ みどりちゃんは私とちがう考え方をしている、この種の人間とはこの先も打ち解けあえることはないだろうと思っ

ル可能性は単なるフィクション(※作り事やウソ)にすぎない。② コン

ピニに行つても食べ物がない事態がいつ訪れるか、誰にも判らない。

自分が、野生動物として何の保証もない自然の中で生きる時に直面する問題を、たとえその一部分でもいいから想像してみれば、そこにいか

に多くの不確実性が潜んでいるか、わかるはずだ。

水族館などで、ペンギンが水辺をうろうろしているのを目撃したこと

があるかもしれない。

水の中に飛び込む素振りを見せながら、なかなか飛び込まない。飛び

込むかと思うと、やめてしまう。③ お互いに、「お先にどうぞ」とばか

りに譲り合っているようにも見える。微笑ましい光景にも思われるが、

あのようなペンギンの振る舞いの背後には、自然界における生存を巡る

厳しい条件が隠されている。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数制限のある場合は、句読点や符号も一字と数えます。)なお(※)は作問者の註です。

神ならぬ人間は、宇宙の中の全てを見通すことはできない。自らが住む環境についても、完全な知識を得ることはできない。どのような選択をして、どのような道を選べば生きる上で最も有益なのか、それが判らないままに判断し、決断し、選択している。人間は、いわば「有限の立場」に投げ込まれているのである。人間の「有限の立場」と、創造ということは深く結びついている。コンピュータも、限られた素子(※コンピュータを動かしているいちばん小さな単位)の状態で様々なことを計算するという意味では「有限の立場」に置かれているが、①その乗り越え方が人間とコンピュータでは違うのである。

「神の視点」から見れば、新しいものの創造ということはあり得ない。全てがあらかじめ見えていれば、「あ」も「い」もない。思いもかけない新しいものが生まれる可能性があるということは、すなわち、未来がそれだけ不透明で不確実なものでもあるということである。

人間が置かれた状況は、全ての生物が投げ込まれている条件でもある。文明に飼ひ慣らされた人間は、コンピュータに行けば食べ物があると思いかねないが、生物の長い歴史は、どこに行けば食べ物があるのか確実には判らない状況での生存競争の歴史でもあった。それに、コントロー

しかし、何時までも飛び込まずにとめらつていられるわけにもいかない。いつかは危険を冒してでも海の中に飛び込まなければ、餌をとれずに死んでしまう。餌がとれるか、それとも食われてしまうのか、④避けることのできない不確実性の下で、いつかは決断を下し、飛び込む——海の中に真っ先に飛び込む「最初のペンギン」がいるからこそ、群れ全体に

とつての事態が切り開かれるのである。

英語圏(※英語を母国語として話す国々)では「最初のペンギン(First penguin)」と言えば、勇気を持って新しいことにチャレンジする人のことを指す。そのような概念(※物事の内容のあらましをまとめた意味内容)、それを表現する言葉があるということは、それだけ、不確実な状況下で勇気をもって決断する人が賞賛される(※ほめたたえられる)文化があることを示している。

未来が見渡せないままに不確実性の海に飛び込むというのは、創造性の発揮において、人間がまさに行なっていることである。創造的な人間は、不確実な状況下で海に飛び込むという「決断」を下す。ペンギンと、生物の進化の歴史を通してつながっている。不確実性に直面し、それを乗り越えるための脳の感情のシステムの働きを通してつながっているのである。……(※)

意味合いやちがいである。一見とらえどころがないようにも見え、
⑤ どのような方程式でも、どんなルールでも書くことのできないように思える感情こそが、不確実な状況の下での私たちの直観を支えているのである。……

どの学校に進学するか。専門は何にするか。どの会社に就職するか。それとも自分で事業を興すか。この人と付き合つて大丈夫か、結婚してもいいのか。不条理な上司のことを、周囲に訴えかけるべきかどうか。それとも、しばらくは黙つてがまんして様子を見るか――。

今日の昼食を何にするかという小さな問題から、人生を左右するような大きな問題まで、私たちが人生で直面する殆どの問題は、確実な答えがわからない不確実なものである。そのような場面で確実な答えだけを求めていたら、かえつて判断を誤る。たとえ確実なことが判らなくても、自分の直観を信じて行動することで道は開ける。……

もちろん、その結果、失敗したり、痛い思いをするかもしれない。しかし、それはこの世界に生きていく以上仕方がないことである。人間だけでなく、生物は皆不確実な世界の中で生きていく。不確実さをいわずらに避けたり、確実な正解があるはずだと思ひこむことの方が、よほど危険である。……

うまく生き延びるためには、不確実さに立ち向かい、乗りこえるための感情の技術を磨く必要がある。そのことは、文明以前の原始時代でも、今日でも変わることはない。

(茂木健一郎『脳と創造性』による。)

ペンギンたちは「」と考えていること。

問五 ――線④「避けることのできない」とありますが、ペンギンにとつて、「避けることのできない」こととは、具体的にはどのようなことですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 海に入れば、いつかは、他の動物に食べられてしまうのだということ。

イ 海に入っても、殺されたり餌をとれたりすることは確実ではないということ。

ウ いつかは餌をとるために、海に飛び込まなければならないということ。

エ 海に入っても入らなくても、いつかは死んでしまうのだということ。

問六 ――線⑤「どんな方程式でも……不確実な状況の下での私たちの直観を支えている」とありますが、「方程式やルール」と「感情」(が下す判断)とが最も異なるのは、どのような点であると筆者は述べていますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 方程式やルールでは、ある問題(場合)の答えやその求め方は一つだが、感情は多様な上に同時に表れるという点。

イ 方程式やルールは、簡単に書き表すことができるが、感情は複雑すぎて、とても文字では書き表せないという点。

ウ 方程式やルールは、ある問題(場合)の解決方法は一つだが、感情は、決まった結果になるとは限らないという点。

エ 方程式やルールは、問題(場合)に対して常に正しい答えを出す

問一 ――線①「その乗り越え方」とありますが、この部分を次のようにくわしく言いかえました。この部分より前の文章から、A・Bにあてはまることばを、文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

自分を取り巻く全ての状況や未来が A(四字) 状態で、B(十文字) する、その方法。

問二 あ と い には、反対の意味の言葉が入ります。その組み合わせとして最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア	あ	…	良い	い	…	悪い
イ	あ	…	新しい	い	…	古い
ウ	あ	…	高い	い	…	低い
エ	あ	…	好き	い	…	嫌い

問三 ――線②「コンビニに行つても食べ物が無い事態がいつ訪れるか、誰にも判らない」とありますが、これはどのようなことを述べているのですか。その答えとなる次の文の A・B にあてはまることばを、文中から指定された字数の漢字で探し、書きぬきなさい。

現代人はコンビニに行けば食べ物が手に入ると思っているが、その A(二字) B(四字) にもなく、その点では人間も B(四字) も、何も変わらないということ。

問四 ――線③「お互いに、『お先にどうぞ』とばかりに譲り合つていくようにも見えない」とありますが、ペンギンたちが他のペンギンを先に行かせようとする本当の理由は何ですか。その答えとなる次の文の にあてはまることばを、文中から一文で探し、その最初の五字を書きぬきなさい。

感情は、答えをまちがうこともあるという点。

問七 次の一文が、文中から抜けています。入る場所として最も適当なものを文中の の中から選び、記号で答えなさい。

肉食獣が闊歩しているからといって、何時までも洞穴に隠れているのは飢え死にしてしまう。

問八 この文章の内容と合わない(矛盾する)、あるいは書かれていない考えを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「最初のペンギン」の中には、運悪く、恐ろしい敵に食べられるものも少なくないはずだ。

イ 「最初のペンギン」が、もし、全くいなければ、ペンギンという動物は滅んでいただろう。

ウ 「最初のペンギン」であるための条件は、文明以前の原始時代でも、今日でも変わることはない。

エ 「最初のペンギン」の数が少ないほど、その動物の進化の速度は遅くなつたはずだ。

オ 「最初のペンギン」よりも、「二番目のペンギン(Second penguin)」になるほうが賢い。

3 次の①～⑤の()に当てはまる敬語表現を、すべてひらがなで、指定された字数で書きなさい。

- ① 友人の家で、おいしいケーキを (四字) ました。
- ② あなたのお手紙を (四字) しました。
- ③ 今度は、いつ、東京に (六字) ますか。
- ④ どうぞ、冷めないうちに (五字) てください。
- ⑤ 先生、その仕事は私が (三字) ます。

4 次の①～⑤の□に、それぞれ色を表す漢字を入れて、ことわざや慣用句を完成させなさい。

- ① 最近の彼は、正しく「朱に交われれば、□くなる」例だな。
- ② 建築家の彼女の家は質素で、「紺屋の□ばかま」の見本だ。
- ③ あの生徒は、手ひどく叱られて、「□菜に塩」の様子だよ。
- ④ 彼女は、この多数の参加者の中の「□一点」である。
- ⑤ あの男は「腹が□い」から、気をつけろよ。

5 次の①～⑤の漢字の前か後に、それと同じ、または似た意味を表す漢字をつけ加えて、二字の熟語を完成させなさい。

- ① 福
- ② 従
- ③ 発
- ④ 寒
- ⑤ 委

6 次の①～⑤の文の——線をつけたカタカナを、それぞれ漢字になおしなさい。

- ① 常緑ジュリンの研究を行う。
- ② 台風で大きなソンガイを受けた。
- ③ 最近のテンコウは不順だ。
- ④ 家族をヤシナウ。
- ⑤ 元氣そうなクチョウの声だった。

【問題は、ここで終わりです】

氏 名



2014 年度 第1 回入試
 昌平中学校入学試験問題
 (1 月 10 日午前実施)

受験番号				

得 点		

国 語

解答用紙

6	5	4	3	2	1
④ ①	①	①	④ ①	問五 問三 問一 A A	問五 問三 問二 問一 (1)
		②		問六	問四
	②			B	A
5			②		
⑤ ②		③		問七	B
			⑤		B
	③				5
		④		問八	
	④			問四	
③			③		
		⑤			
	⑤				